

2019年



トンペイ 東北クラブ

第43 宮城県サッカーリーグ2部成績表

	塩釜FC ヴィーゼ	六郷クラブ	KEMONO in櫻木	マリソル松島 SC	東北クラブ	田尻FC	宮エクラブ	AYASHI.FC
塩釜FCヴィーゼ		1 - 1 △ 2 - 3 ●	4 - 1 ○ 5 - 2 ○	3 - 0 ○ 2 - 0 ○	1 - 1 △ 3 - 1 ○	3 - 2 ○ 5 - 2 ○	2 - 4 ● 3 - 3 △	2 - 1 ○ 3 - 1 ○
六郷クラブ	1 - 1 △ 3 - 2 ○	0 - 3 ● 3 - 3 △	0 - 0 △ 0 - 1 ●	2 - 1 ○ 4 - 1 ○	3 - 4 ● 1 - 2 ●	1 - 3 ● 0 - 1 ●	4 - 0 ○ 3 - 1 ○	4 - 0 ○ 3 - 1 ○
KEMONOin櫻木	1 - 4 ● 2 - 5 ●	3 - 0 ○ 3 - 3 △	2 - 2 △ 4 - 2 ○	0 - 6 ● 3 - 4 ●	4 - 1 ○ 1 - 2 ●	3 - 1 ○ 0 - 1 ●	5 - 0 ○ 5 - 0 ○	
マリソル松島SC	0 - 3 ● 0 - 2 ●	0 - 0 △ 1 - 0 ○	2 - 2 △ 2 - 4 ●	4 - 0 ○ 0 - 1 ●	3 - 2 ○ 3 - 0 ○	2 - 2 △ 2 - 0 ○	2 - 2 △ 3 - 0 ○	2 - 2 △ 7 - 0 ○
東北クラブ	1 - 1 △ 1 - 3 ●	1 - 2 ● 1 - 4 ●	6 - 0 ○ 4 - 3 ○	0 - 4 ● 1 - 0 ○	3 - 2 ○ 2 - 2 △	0 - 5 ● 0 - 0 △	3 - 2 ○ 5 - 3 ○	3 - 2 ○ 5 - 3 ○
田尻FC	2 - 3 ○ 2 - 5 ●	4 - 3 ○ 2 - 1 ○	1 - 4 ● 2 - 1 ○	2 - 3 ● 0 - 3 ○	2 - 3 ● 2 - 2 △	0 - 3 ● 0 - 3 ○	2 - 2 △ 3 - 0 ○	2 - 2 △ 3 - 0 ○
宮エクラブ	4 - 2 ○ 3 - 3 △	3 - 1 ○ 1 - 0 ○	1 - 3 ● 0 - 0 ○	2 - 2 △ 0 - 3 ●	5 - 0 ○ 0 - 0 △	3 - 0 ○ 3 - 0 ○		9 - 0 ○ 5 - 0 ○
AYASHI.FC	1 - 2 ● 1 - 3 ●	0 - 4 ● 1 - 3 ●	0 - 5 ● 0 - 5 ●	2 - 2 △ 0 - 7 ●	2 - 3 ● 3 - 5 ●	2 - 2 △ 0 - 3 ●	0 - 9 ● 0 - 5 ●	

第43回 宮城県サッカーリーグ2部順位表

	チーム名	試合数	勝ち	負け	分け	得点	失点	得失点	勝ち点	順位
1	塩釜FCヴィーゼ	14	9	2	3	39	22	17	30	2
2	六郷クラブ	14	5	6	3	25	23	2	18	5
3	KEMONOin櫻木	14	6	6	2	36	31	5	20	4
4	マリソル松島SC	14	6	4	4	29	18	11	22	3
5	東北クラブ	14	6	5	3	28	31	-3	18	6
6	田尻FC	14	4	8	2	19	36	-17	14	7
7	宮エクラブ	14	9	2	3	40	14	26	30	1
8	AYASHI.FC	14	0	12	2	12	58	-46	2	8

4/7 (-3)

2019年 全試合一覧

1	4/7	宮城県リーグ第1節	11:00	●	0-4	マリソル松島SC	松島総合運動公園
2	4/14	宮城県リーグ第2節	12:00	●	0-5	宮エクラブ	松島FBC1
3	4/21	社会人大会2回戦	15:00	●	0-7	FC Sendai Wolfie	登米市東和運動公園人工芝
4	4/28	宮城県リーグ第3節	10:00	●	1-2	六郷クラブ	松島FBC1
5	5/5	宮城県リーグ第4節	13:30	△	1-1	塩釜FCヴィーゼ	七ヶ浜スタジアム
6	5/12	クラブ選手権1回戦	11:45	○	4-1	BOA SORTEさくら	松島総合運動公園
7	6/9	クラブ選手権2回戦	10:00	●	0-4	東六クラブノスタルジア	アイリス角田
8	7/14	宮城県リーグ第5節	11:20	○	6-0	KEMONO IN 楠木	みやぎ生協めぐみ野サッカー場C
9	7/28	宮城県リーグ第6節	13:00	○	3-2	AYASHI.FC	みやぎ生協めぐみ野サッカー場A
10	8/18	宮城県リーグ第7節	15:00	○	3-2	田尻FC	松島FBC2
11	9/1	宮城県リーグ第8節	13:00	○	1-0	マリソル松島SC	アディダススポーツパーク
12	9/15	宮城県リーグ第9節	13:10	●	1-3	塩釜FCヴィーゼ	みやぎ生協めぐみ野サッカー場C
13	9/22	宮城県リーグ第10節	12:00	△	0-0	宮エクラブ	みやぎ生協めぐみ野サッカー場C
14	9/29	宮城県リーグ第11節	14:00	○	4-3	KEMONO IN 楠木	松島FBC2
15	10/6	宮城県リーグ第12節	11:40	●	1-4	六郷クラブ	みやぎ生協めぐみ野サッカー場C
16	10/20	宮城県リーグ第13節	14:00	○	5-3	AYASHI.FC	アディダススポーツパーク
17	11/10	宮城県リーグ第14節	11:20	△	2-2	田尻FC	色麻町愛宕山サッカー場

■ 2019年4月7日(日曜日) 県リーグ第1節 対マリソル松島SC戦

試合開始 11:00 (40分ハーフ) 場所:松島総合運動場

【結果】0-4で負け

【得点者】なし

【アシスト】なし

【タメ】GK:梅田芳樹(新加入)

DF:小笠原貴大、矢代昌彦、長谷川昂輝、本城雅也(新加入)

MF:高橋佳亮、今野琢人、八重樫英一郎、柴田健太郎

FW:外館篤、豊田雄一朗(新加入)

【控え】河村一朗(新加入)、残間諒

【交代】本城→河村

【警告】小笠原、今野

【バンズ】鈴木修平、秋保盛樹、猪俣和弘、千葉一樹(新加入)、吉田和朝

【評】

いよいよ2019年シーズンが開幕しました。

ピッチコンディションは大変良く、少々気温が低いものの、プレーするには絶好の天候でした。

昨年度に続き、本年度も大幅に選手が入れ替わり、開幕後1ヶ月は難しい試合が続くと予想はされていました。しかし、試合巧者の相手が初戦だったことは不運で、相手

のパス回しに翻弄されて体力を奪われ、終わってみれば0-4の完敗となっていました。

前半立ち上がり早々から押し込まれる時間帯が続き、11分にゴール正面17mから直接FKを壁の間を通して失点。17分には左サイドを1:2の数的不利から突破され、又もハットトリックで2点目を失ってしまいました。

相手の前線の選手は、常にDFラインの裏を取るような仕掛けから巧妙に2列目に降りてきて、サイドに展開してはサイドで数的優位を作るというパターンを徹底してきました。昨年度はこの手の攻撃にも、DFラインと中盤の選手が連携して押さえ込む守備ができていたのですが、この日はマークの受け渡しや取りどころが徹底されていないため、どうしても自由にホールキープされてしまう時間が増えていました。それでも27分には、カウンターから高橋が初シュートを放ちますが、バーの上を越えていきます。

その後も再三相手の好機が続いたものの、なんとかしのいでハーフタイムへ。

攻撃面では、ダブルボランチが前を向いたプレーができるまま相手に狙われ、2トップへボールが収まることも稀で、なかなか攻撃の起点が作れませんでした。

ハーフタイムには、さすがにDFとボランチがラインの上げ下げや役割分担を話し合い、ボランチが前後に構えるなどポジション面での修正も確認されました。また、押し込まれたこともあって相手のDFラインが高いので、スパスを利用しようということになりました。

痛かったのは、後半開始2分でパスを奪われて早々に失点したことでした。さすがに3点差になると出鼻を挫かれた状態に。

ついていないときはとことんそうなるもので、63分の絶好機、相手ゴール前を何度もボールが行きかいながら、なぜかゴールラインを割ることはできず。

66分には新加入の本城が脚の痙攣で交代を余儀なくされる。なれないポジションとはじめてのメバーで、身体への負担はかなりのものだったか。

終了間際のダメ押し点も余計でしたが、思うようにいかない苛立ちからか、2人がカードをもらうやうはもっといらなかつた…。

次戦に向けて、切り替えていくしかありませんね。【記:吉田】

■ 2019年4月14日(日曜日) 県リーグ 第2節 対宮工クラブ戦

試合開始 12:00 (40分ハーフ) 場所:松島フットボールセンター1

【結果】 0-5で負け

【得点者】 なし

【アシスト】 なし

【スタメン】 GK:梅田芳樹

DF:長谷川昂輝、高橋佳亮、小笠原貴大、土肥功之介(新加入)

MF:小西賢、今野琢人、河村一朗

FW:外館篤、山寄晶平、残間諒

【控え】なし

【交代】なし

【警告】なし

【ベンチ】鈴木修平、山㟢紗奈

【運営】吉田和朝、秋保盛樹

【評】

先週は4月というのに雪が降り寒い日が続いた。そのため満開になるかと思われた桜も足踏み状態となっていた。それが今日は快晴となり、気温も上昇していたるところでお花見の光景が見られることになった。

今日は県リーグ開幕2戦目、場所は松島フィットボールセンター1、相手は満を持して昇格してきた「宮工クラブ」だ。

今日は試合だけでなく「運営当番」も割り当たっており、自分たちの試合にだけ集中する訳にもいかない事情があった。普通、自分たちの試合を運営することは滅多ないことであるが、県リーグ2部も7チームから8チームになったことで割り当てが難しくなってきてるのであろうと推測する。事務局の苦労がしのばれる。

12:00キックオフ。メンバーは11人。2人が体調悪く来れなくなつたため、前試合で副審をやってくれた残間君を本人が希望する「控え」ではなくスタッフでお願いすることになった。そうして11人が揃つた次第である。

「宮工クラブ」とは仙台リーグ時代に何度も対戦している。両サイドからスピードある個人技で突破し、センタリングを上げて中央で勝負する、という得点の確率が極めて高いスタイルを得意とするチームだった。我々もその攻撃パターンは効果的なのでずっと追い求めてきた。

開始して時間が経過するにつれ、相手チームは自分たちが想像していた以上にスピード・チームプレー・個人技があることを思い知ることとなる。自チームは開幕戦は初顔合わせのメンバーであることと体が思うように動かなかつたこともある。しかし、相手チームはそれを上回っていた。東北クラブもメンバーは若い方の部類に入る。しかし、相手チームはそれ以上に若いようだった。

開始2分、左から早いセンタリングが中央へ入ってくる。これに合わせたのは山㟢、ハデイングのタイミングはぴったり、これは!と期待されたが惜しくもゴールにはならず。ほんの少し何かが違うだけでゴールにならなかつたりするものである。しかし、これで今日は行けるのではないかと思えたのも事実である。

12分にはJ-ナーキックを得る。18分には河村がペナルティエリア付近で3人を相手にシュートを窺う場面が続く。MFの小西、小山の運動量がチャンスに直結する。押されながらも均衡を保つ。

31分、均衡が破れる。0-1。その後、相手は勢いに乗り攻勢を強める。GKと1

対1になる場面が2度ほどあったがGK梅田のファインプレーは追加点を許さなかつた。

後半になると相手のボールを奪っても、スピードとパワーと数的優位でパスをカットされ、カウンターアクションを喰らうという場面が多くなる。これはプレーヤーの疲労を倍加させる。時間が経過するにつれ徐々に体力を消耗していった。CKのセットプレーからの2失点を含め4点を失う。こちらにチャンスが無かった訳ではない。終了3分前には連係プレーでパスがいい形でつながる。最後は山崎が低弾道の絶妙のショートを放つ。これは「入った!」と誰も思った。しかし「かーん!」という無情な音とともにゴール・ポストに跳ね返された。

新加入の土肥は今日初登場。ボール・コントロール、スピードとともに相手に引けを取らなかった。しかし、ボールを奪取するもその次のプレーはいちいち考えなければならぬ場面が多くみられた。味方のプレーヤーはどういうプレーを得意として、どこにどういうボールが欲しいのか等々意思疎通ができる、考えなくともボールが出せるようになるまでしばらく時間がかかりそうである。それが可能になった時、彼も攻撃の大きな起点になってくれるであろうと確信した。

今日の試合で悔やまれることは、得点がゼロだったことだ。負け試合でも得点を入れて終わると、そうでないのでは次の試合への影響が違う。次戦以降、心に留めておいてほしい。【鈴木修平.記】

■ 2019年4月21日(日曜日) 全国社会人選手権1回戦 対FC.sendai Wolfie戦

試合開始 15:00 (40分ハーフ) 場所:登米市東和運動公園G

【結果】 0-7で負け

【得点者】 なし

【アシスト】 なし

【スタメン】 GK:梅田芳樹

DF:小西賢、今野琢人、外館篤、八重樫英一郎

MF:豊田雄一朗、吉田和朝、秋保盛樹

FW:残間諒、鈴木修平(後半)

【控え】 なし

【交代】 なし

【警告】 なし

【ハーフ】 鈴木修平(前半)

【評】

初めての登米市東和運動公園グラウンド、素晴らしいグラウンドだったが結構遠かった。集合時間の13:30頃は快晴で心地良かったが、だんだん曇ってきて試合開始の頃には薄暗く肌寒くなつた。

今日は全国社会人選手権1回戦、相手はFC.sendai Wolfie。初めての対戦相手であった。

最終的に集まったメンバーは7人。「…」スタッフは顔を見合せた。相手は一・二軍ではないものの「仙台大学」関連チームである。スタッフ3名の年齢を足すと195歳、相手チーム9人に相当する、という訳の分からない冗談を飛ばしながら、出場することに決めた。

このような状況でも、前半は20分まで0-0。押し込まれはするものの得点を許さなかった。しかし、徐々に相手は数的優位を最大限に活かして得点し、前半は0-3。

前半、スタッフの故障に備えベンチを温めていた鈴木(修)は、後半から出場した。「交代」ではなく「追加」出場という珍しいパターンだったようだ。そして後半は、ベンチに誰もいなくなった。なので、観戦記もここで切れる。【鈴木修平.記】

■ 2019年4月28日(日曜日) 県リーグ2部第3節 対六郷クラブ戦

試合開始 10:00 (40分ハーフ) 場所:松島フットボールセンター1

【結果】1-2で負け

【得点者】石川湧己

【アシスト】八重樫英一郎

【タメン】GK:小西賢

DF:小笠原貴大、高橋佳亮、上村隆道

MF:今野琢人、八重樫英一郎、田宮遼太(新加入)、豊田雄一朗

FW:石川湧己、秋保盛樹(前半)

【控え】鈴木修平

【交代】秋保盛樹→鈴木修平(後半)

【警告】なし

【ベンチ】吉田和朝、鈴木修平(前半)、秋保盛樹(後半)

【評】

4月はウイークリーが雨模様で、週末が晴れるという日が多かった。今日も快晴に恵まれた。

今日の相手は「六郷クラブ」、場所は松島フットボールセンター1だ。

メンバーハーは9人。ちょっと足りない。スタッフが3名いるが吉田J-チは先週の試合で内離れを再発し出場不可。秋保さんは次の試合の副審があり、ハーフ出場では負荷が大きい。六郷クラブ相手に9名では最初から試合を捨てるようなものである。相談の結果、前半を秋保さん、後半に鈴木(修)が交代ということにして10名で戦うこととした。

10:00キックオフ。立ち上がりはまずまずの滑り出しだった。相手も長く県リーグで存在を示してきたチームである。最初からガツガツとは来ない。お互い確実なパス回しからゴールのチャンスを窺う。

11分、パスがつながり相手陣内深くまで攻め込む。最後は上村がシュートしたが惜しくもゴールにはならず。そのような状況が前半終了3分前まで続く。相手は、

数的優位を作り出し、サイドからえぐり、中で合わせてゴールを狙う。何度も「失点か!」と思われる場面があった。地を這うような低いショットが右に左に何度も襲った。キックしようとしたら恐らくゴールになっていたであろう。しかしGK小西は手よりも足が反応し、3本はあったであろうこのゴールを無にした。10名(実質9名)とは思えない内容であった。

前半残り3分、のまま0-0で折り返せれば…と思ったが、そうはいかなかつた。相手の攻撃がようやく実を結び、相手にとっては待望の1点となる。

後半も、人数が足りないことを忘れさせるような試合が続く。

59分、中盤でのせめぎあいから八重樫がボールを奪取、間髪を入れずボールを出す。erule-1スは石川にピ-レとあった。相手DFのラインをトロッP一発で抜け出す。DFに寄せられながらもGKとの間合いを詰めていく。GKが出てきたところを冷静に見極め、ショット。ボールはGKの右脇下を抜け、ゴール右隅のネットを揺らす。1-1。起死回生の同点ゴールにバンチもフィールドも沸いた。東北クラブにとって、待ちに待った今季初ゴールでもあった。

この後しばらく東北クラブの攻勢が続いた。しかし、若い選手たちもさすがに体力を消耗し、徐々に相手の数的優位を活かした攻撃に守りを崩される場面が多くなる。残り5分を切った76分、遂に勝ち越しのゴールを奪われ1-2。そしてタイムアップ。やはり、1人(実質2人)の穴は大きかった。

今日は、田宮遼太君が出場してくれた。5-6月仙台での会社の研修の合間に縫っての助っ人です。【鈴木修平.記】

■ 2019年5月5日(日曜日) 県リーグ2部第4節 対塩釜FCウイ-セ戦

試合開始 13:30 (40分ハーフ) 場所:七ヶ浜サッカースタジアム

【結果】1-1で引き分け

【得点者】豊田雄一朗

【アシスト】石川湧己

【スタメン】GK:梅田芳樹

DF:小笠原貴大、高橋佳亮、上村隆道、扇隆介(新加入)

MF:小西賢、今野琢人、河村一朗

FW:石川湧己、豊田雄一朗、柴田健太郎

【控え】残間諒

【交代】なし

【警告】なし

【バンチ】鈴木修平、秋保盛樹

【運営当番】吉田和朝、小川修一、猪股和浩

【評】

今日は5月5日「子供の日」である。例年ならゴールデンウイーク後半で鯉幟などで賑わうのだが、今年は5/1が平成から令和に元号が変わるために休日になり、4/27

から10連休という異例の長期休暇となり祝日の意義が薄れた感がある。お天気はと言えば、今日も快晴に恵まれ、日差しは強いものの浜風が冷たく気持ち良い。メンバーも今日は12名揃った。

今日の相手は塩釜FCヴィーゼ、通常なら降格にはならなかつたのだろうが、今年は上部リーグから予定外の降格があり2部に押し出された形となつたようである。戦績は2017年度は、0-6,0-5と完敗している。

今日のメンバーは若手だけで12名である。スタッフも5名と久々に豪華な人数となつた。今日は「運営当番」が割り当たつており、しかも自チームの試合も運営しなければならないのでスタッフ5名は心強いことであった。

13:30キックオフ。久々のフル・メンバーで最初から動きも良い。開始早々の2分にはペナルティーエリア付近でFKを得る。シュートは惜しくもゴールにはならなかつたが幸先の良いスタートだった。4分には上村が右から大きなビーベンをゴール前に上げる。タイミングが早かつたか、ボールはゴール前を横切つて行った。9分、柴田が快速を飛ばして左から上がりセンタリング、今野、河村が詰めるが相手DFに阻まれる。11分、相手ペナルティーエリア付近で何度もボールを回す絶好の場面があつたが相手もそう簡単にシュートはさせてくれない。

17分、25分、29分とチャンスが続く。そして33分、ついに攻撃が実を結ぶ時がやって来る。自陣左下での攻守からボールがCB扇へ、扇は右に開いていた石川にロング・パス。速い直線ボールは相手DFの頭上を超えて伸びた。石川はトゥップした時、既に独走状態にあつた。相手DF、GKの動きを見据え、ゴールライン近くで中に詰めてきている豊田に鋭角に戻すセンタリング。ここしかないとドリブルに走り込んだ豊田が右足で合わせる。GK、DFと交錯しながらボールはゴールネットを揺らした。豊田待望の初ゴールであった。1-0。この時間帯のゴールは極めて有効である。

相手も試合巧者らしく自分たちの得点パターンに持ち込むべく、再三再四突破口を作つてきた。しかし、DFはそれを何度も消した。今日DFに初登場の扇の働きが貢献していた。両チームとも運動量が激しく、気の抜けないプレーに息を大きく弾ませる選手が殆どであった。前半を1-0で折り返す。

後半は開始早々2分、河村が相手の激しいチャージにあいながらも、ぶつちぎつてゴールに迫る。15分には高橋(佳)が、17分には石川がチャンスを作るがゴールを奪えない。逆にチャンスの後にピントを迎え1-1に追いつかれる。後半18分。

その後も相手は攻勢の手を休めない。局地戦で数的優位を作りDFラインを突破してはゴールを襲う。DFとMFはよく凌いで1点で抑えた。MF小西・今野が危ない場面になりそうな局面を未然に消していたことは大きい。

相手は攻めても攻めてもなかなか得点できずに疲れも出たのであろう。後半も残り10分を切つた辺りから、守りに隙ができるようだつた。インターセプトすると、1本のパスで独走状態になることが何度も続いた。しかし、なぜ入らないのか不思議なくらい得点にならなかつた。

この七ヶ浜サッカースタジアムには、東北クラブの勝利を阻む何かが潜んでいるよう

な気がしてならない。思い起こせば2014年12月21日の1部への入替戦対Kem ono IN 梶木 0-2、2015年5月31日県リーグ対BOA.SORTEさくら戦 1-2、2017年5月21日県リーグ対七郷クラフ戦 1-2、2018年9月23日県リーグ対マリル松島戦 1-2とどれも入りそうなゴールがなぜか入らず試合を落としている。しかし、見方を変えれば塩釜FCガイセイ相手に1-1で引き分けたのだから良い方に向かっていると考えても良いだろう。

いずれにしても、今日の試合は久々に見応えのあるいい試合だった。選手達に感謝したい。【鈴木修平.記】

■ 2019年5月12日(日曜日) クラブチーム選手権2回戦 対BOA.SORTEさくら戦

試合開始 11:45 (30分ハーフ) 場所:松島総合運動公園

【結果】4-1で勝ち

【得点者】小山海斗(1点目)、石川湧己(2点目)、柴田健太郎(3,4点目)

【アシスト】土肥功之介(1点目)、柴田健太郎(2点目)、なし(3,4点目)

【スタメン】GK:梅田芳樹

DF:小西賢、小笠原貴大、本城雅也、田宮遼太

MF:今野琢人、石川湧己、小山海斗

FW:柴田健太郎、土肥功之介、千葉一樹(初出場)

【控え】八重櫻英一郎、残間諒

【交代】千葉一樹→八重櫻英一郎

【警告】柴田健太郎

【ベンチ】鈴木修平、秋保盛樹

【評】

今日も雲一つない快晴に恵まれる。

クラブチーム選手権2回戦、場所は松島総合運動公園、相手はBOA.SORTEさくらである。初戦だが2回戦となる。BOA.SORTEさくらは県南のチームで、2013年11月に県リーグ2部への昇格選考試合で2度、その後2015年県リーグ2部に昇格した時2度対戦している。昇格選考試合では2勝したが、県リーグの時は1敗1分けであった。ストロング・タイポの当たりが強いチームという印象がある。小さなパスと大きなパスを使い分け多彩な攻撃を得意としているチームである。あれから4年、相手のメンバーがどう代わっているかが注目だった。

今日も13名が集まり人数に不足は無かったが、メンバー構成は毎回異なる。今回のようなトーナメントでは、いかに短時間でそのメンバー構成に慣れるかがポイントになる。30分ハーフなので、40分ハーフの試合に比べると「あっ」という間に終わってしまう感覚である。先行逃げ切りが有効であることは論を待たない。

11:45、キックオフ。相手チームもトーナメントの時の思いは同じようで、最初から飛ばしてきた。パスの球足は速い。ボールへの寄せも激しい。リーグ戦ではあまり見られない試合の流れである。

前半8分、DF右でクリアしたボールが左ペナルティーエリア付近に入ってくる。相手FWは縦に突破して来る。DFはセンタリングを阻止しようとブロックした。そんなに強い当たりには見えなかったが、相手FWは転倒した。主審の笛が鳴った。ペナルティーエリア内なので、当然「PK」となった。0-1。

相手としては、早めに追加点を取って試合を決めたいところだ。

東北クラブは、最初こそぎこちなさはあったが、徐々にそれは無くなり、こなれてきたようであった。初めての顔ぶれとは思えない連係プレーが随所に見られるようになっていった。早い、ダイレクトのパス回しは相手の防御を崩すのに効果があったようだ。13分、中盤右で土肥がボールをコントロールする。小山が土肥と交差する。さらに千葉が土肥と交差してボールは千葉に渡る。そのまま前にに行くかと思いきや千葉はヒールで土肥に戻す。土肥はここで完全にフリーとなった。目の前に空きパスができ、そこへ小山が走り込むのが見えた。土肥の縦パスが小山へ通る。相手DFに囲まれながらも体勢を崩さずGKの動きを見極めてシュート、ボールはゴール右隅に納まった。1-1。

失点の後、この時間に同点に追いついたことは大きかった。これを機に、激しい競り合いでもワクワク早くボールに触る場面が多くなり、徐々に東北クラブの攻勢へつながっていった。16分、17分と柴田がゴールを脅かす。

前半を1-1で折り返し、後半に入る。相手チームは前半でかなり消耗したように見受けられた。後半6分、自陣ペナルティーエリア附近でボールを受け柴田は、詰めてきた相手を切れ味鋭いファインドで一瞬にフリーになる。そして最初から狙っていたように前線へDFの頭越しにロングパスを出す。相手DFは2人が並走する。その間に石川がいる。ボールの落下点は石川が取った。DFは石川に追いつけなかった。独走状態になった石川はGKの動きを見てゴール右ヘッドを流す。GKは逆を取られた形になりボールを見送ることしかできなかった。2-1。勝ち越しに成功する。

後半9分、スローインからのボールがCBへ戻り、左へと移る。ボールを受けたのは石川。前を走る柴田に右足でループ・パスが出る。ボールは期待通り右にカーブして相手DFの前の柴田に届く。柴田はDF2人を引き付け中に切れ込む。そこへ石川が走り込む。後ろで受けた石川はフリーでセンタリングできた。中に1人詰めていたがタイミングが合わなかった。しかし、ゴール前の攻防でのこぼれ球が柴田の前に転がる。間髪を入れずに、左足の強烈シュートが炸裂した。GKは反応できなかった。3-1。

その後も攻勢は続いた。土肥、八重樫が相手陣内深いところまでドリブル突破するも惜しくもゴールとはならず。相手もよく反撃したが、DFは隙を作らせなかつた。残り2分、ほぼ勝敗の趨勢は決していたが、相手は柴田のドリブルを止められず痛恨のPKを取られる。4-1。

東北クラブにとっては、今季初勝利となつた。勝ち方も良かった。試合内容も良かった。次回のクラブチーム選手権3回戦も今日のような試合にしたい。

【鈴木修平.記】

■2019年6月9日(日曜日) クラブチーム選手権3回戦 対東六クラブノタルジア戦

試合開始 10:00 (30分ハーフ) 場所:アイリス角田グラウンド

【結果】0-4で負け

【得点者】なし

【アシスト】なし

【スタメン】GK:梅田芳樹

DF:小笠原貴大、黒田尚志、田宮遼太、千葉一樹

MF:今野琢人、土肥功之介、八重樫英一郎

FW:石川湧己、豊田雄一朗、外館篤

【控え】残間諒

【交代】外館篤→残間諒

【警告】八重樫英一郎

【ベンチ】鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝

【評】

前々日、前日と冷たい雨だったが、今日は快晴に恵まれた。今日はクラブチーム選手権の3回戦で、相手は東六クラブノタルジアだ。場所は角田のアイリスオーヤマITP工場の敷地内にあるグラウンドである。開幕時は松島フットボールセンターになっていたが、急に変更になったようである。公式戦で使用するのが今日初めてのようで、主催者側も勝手が分からず戸惑っていたように見受けられた。349号線から素直に工場内に入ると「スポーツセンター」という標識があり、その方向に行くと「違う!」。うろうろして勘を頼りに上がっていくと芝生のグラウンドが見え、「これが!」という人が多かった。初めて来る人のためには、もっと適切な標識が必要であろうと思われた。

グラウンドについては、人工芝の芝生は良かったが、コーナーフラッグを立てる穴が無かった。忘れたのだろうか。グラウンドに入った時、真四角なゴールに違和感を感じたが、今時珍しい鉄製のためであった。反省は四方に張り巡らされてあったが、クリア・ボールはすぐに飛び越える感じであった。プレーが気を使ったか、2試合で数回しか飛び越さなかったが、そのうちの1個は森に飲み込まれたようだ。また、グラウンドでは飲料水は「水」以外禁止となっていたが、水道の蛇口がどこにあるかわからなかった。最後に、トイレが2つあったが建築現場で見られるような簡易トイレであった。世界の「アイリスオーヤマ」を目指しているのであろうから、早晚改善されるであろう。

さて肝心の試合はと言えば、集まったメンバーは12人で申し分なかったが、得意なポジションに偏りが見られた。DFがいつもより少ないので、MFに補ってもらうことにした。

10:00キックオフ。30分ハーフなので先制した方が有利なのは言わずもがなである。お互い、最初から先制点を狙っての厳しい攻防となった。この前の2回戦では、驚くほどのパスワークが見られたが、初めてのフォーメーションのぎこちなさが随所に出

る。1か月も間が空くと、機能するにはそれなりの時間が必要だと思い知る。こちらがまごついている間に相手にチャンスが巡ってくる。8分、9分とディフェンスラインを突破され失点する。その後は、気を取り直し徐々に本来の形を取り戻していた。前半終了間際、左から突破してゴール前にセンタリングという場面があったが、ゴール前を横切るボールに合わせる人がいなかった。勿体ない場面であった。

前半を0-2で折り返し、早めに1点を返しこちらのペースにもっていったかったところだが、なかなか攻撃のリズムが作れなかつた。相手の攻撃をある程度見切ったものの、ボールコントロールとスピードで翻弄される場面が見られた。後半18分、相手の攻撃が実を結び0-3となり勝負の行方はほぼ決した。

これでトーナメントは終了し、後はリーグ戦だけとなる。チームとしての連携が機能するようになるにはもう少し時間が必要だろうと思われるが、残りの試合は10試合もある。まだまだ勝負はこれからである。

【鈴木修平.記】

■ 2019年7月14日(日曜日) 県リーグ2部第5節 対KEMONOin楢木戦

試合開始 11:20 (40分ハーフ) 場所:めぐみ野サッカーフィールドC

【結果】 6-0で勝ち

【得点者】 河村一朗(1点目), 黒田尚志(2点目), 小笠原貴大(3点目), 豊田雄一朗(4点目), 柴田健太郎(5点目), 柴田健太郎(6点目)

【アシスト】 河村一朗(2点目), 柴田健太郎(3点目), 石川湧己(6点目)

【スタメン】 GK:梅田芳樹

DF:小笠原貴大、上村隆道、土肥功之介、千葉一樹

MF:今野琢人、黒田尚志、河村一朗、石川湧己

FW:柴田健太郎、豊田雄一朗

【控え】 外館篤

【交代】 河村一朗→外館篤(70分)

【警告】 なし

【ベンチ】 鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝

【副審】 外館篤(9:30~)

【評】

雨。今シーズンはずつと天候に恵まれてきたが、今日の天気予報はあいにくの雨だ。集合時刻の9時50分頃は、パラパラという程度の雨でこれなら暑くもなく丁度良いかなと思っていた。しかし、試合が近くなるにつれ徐々に雨脚が早くなり、開始前にはシャワーのような雨となった。

今日の相手は「KEMONO in 楢木」、場所はめぐみ野サッカーフィールドC(利府・県C)だ。相手チームは試合巧者で現在得点王を擁し8チーム中3位である。こちらは集まったメンバーは12人。フォーメーションは個々の持ち味を考えて4:4:2とした。

11:20キックオフ。いつもはHH:00とかHH:30という時刻が今日は珍しく20分だった。事務局のグラウンドのスケジュール調整が大変だったのだろうと推察する。余

談ながら、会場のAゲラウンドでは現役の試合(対仙台大学)があるようだった。

こちらの試合は、強い雨の中一進一退の攻防が続いた。相手の出方を見ながら、しかしチャンスと見れば果敢に攻め込む気持ちが溢れていたように見えた。お互いに決定的とは言えないが、そこそこのチャンスとピンチが巡っていた。

13分、右サイド、センターラインから少し入った辺りでボールをつないだ後、柴田が左足でゴール前に早く長いクロスを入れる。左にかづしたボールはゴール左上隅辺りまで到達する。それを長身FW豊田がヘディング、打点はGKより高く、決まったかに見えたがGKはCKに逃げた。

16分、先制点を奪ったのは東北クラフだった。13分と同じような形になる。ゴール前への早いクロスはゴールのバー辺りに到達する。それをGKとFW豊田が競った。豊田のヘディングが勝りボールはゴール前にバウンドした。これを河村が鋭く左足でシュート、「入ったか」と思われたがボールは右ポストに当たり跳ね返ってくる。河村は予想していたかのように冷静に右足で叩く。GKのセービングも虚しくボールはゴールネットを揺らした。1-0。河村のシュートはもちろんだが、豊田のヘディングは長身の上にジャングル力がある。当然打点は高く、GKにとっては脅威であろう。東北クラフにとつて、今後大きな得点源になろう。

20分、中央からの攻撃でDFから縦にミドル・パスが出る。これを河村が受ける。相手DFを引き付けている間に、後ろから黒田が俊足を飛ばしてくる。河村のストップの先にはシュートコースがきれいに空いていた。ノートラップでシュートされたボールは低空弾道でGKの右脇を抜け、ゴール左下隅に突き刺さった。雨で視界が悪いせいもあるが、入ったかどうかすぐにはわからなかつたほどスピードのあるシュートであった。2-0。

前半を2-0で終え後半戦に入る。ここで1点取られると、試合巧者で得点力のある相手チームなのでひっくり返される可能性が無い訳ではない。3点目を早く取りたい、という想いでメンバーやの意識は一致していた(と思う)。後半4分、右サイドの攻撃でCKを得る。キッカーは柴田、左足から放たれたボールは弧を描いてゴール前に、飛び込んできた小笠原にピリとあった。こういうヘディングは止めらるものではない。ゴールネット右上隅に突き刺って3-0。待望の3点目であった。

後半9分、千葉、石川と左からパスをつないで攻めあがる。水溜まりでボールが止まつたところを再び千葉が奪う。GKと1対1になる。捨て身のGKと交錯する。ボールが流れる。そこにいたのは豊田。無人のゴールに4点目をたたき込む。

後半12分、相手ゴールティア付近で攻勢が続く。最後は柴田が得意の左足を振り抜く。地を這うようなボールはGKのセービングの手の先を超えてゴール左下隅に決まった。5-0。

後半30分、相手ボールを自陣でカットした柴田は石川にパスをつなぐ。石川がドリブルして上がる脇を柴田が全力で上がる。石川はそのスピードに合わせ相手DFの間を縫ってゴールパスを出す。柴田がボールを受けた時はDFは全員後ろになっていた。GKは当然間合いを詰めに出てきた。柴田はトップスピードでドリブルしながらシュート

した。GKの頭上を越してゴールに突き刺さり6-0。

これで勝負はあった。槻木相手にこれほどの点差がつくとは誰が予想したであろうか？相手の調子が悪かったとも思えない。ただ人工芝にもかかわらずできた水溜まりがいつものパワーアクションを狂わせた可能性は大である。つながる筈のパワーアクションが水溜まりで止まり、止まると思えば倍のパワードライブになつて取れない。そんな状況がたくさん見られた。こちらも状況は同じだが、4月からの新しいチームで毎回メンバーや位置も変わり、チームとしてのパワーアクションと言えるほどのものはまだ無い。そんな中で、イギュラー・バウンドをものともしなかったメンタリティが勝因ではないかと思える。さらに空中戦を互角以上に制し、プレーヤー同士で得点までのイメージが共有できたことが大きかったような気がする。セットプレーからの得点も久々に見ることができた。場面場面でいい方に賽が転がったような気もする。

これでやっと勝ち点3を得た。開幕式でのパナライもこれで勝ち点1となった。この流れを次節につなげたい。天気は雨だったが、気分は快晴だった。

【鈴木修平.記】



■ 2019年7月28日(日曜日) 県リーグ2部第6節 対AYASHI.FC戦

試合開始 13:00 (40分ハーフ) 場所:めぐみ野サッカーフィールドA

【結果】 3-2で勝ち

【得点者】 河村一朗(1点目),山寄晶平(2点目),八重樫英一郎(3点目)

【アシスト】 なし(1点目),八重樫英一郎(2点目),なし(3点目)

【スタメン】 GK:残間諒

DF:小笠原貴大、高橋佳亮、上村隆道、土肥功之介、

MF:今野琢人、河村一朗、八重樫英一郎

FW:山寄晶平、豊田雄一朗、柴田健太郎

【控え】 外館篤、千葉一樹、梅田芳樹

【交代】 上村隆道→千葉一樹、豊田雄一朗→外館篤

【警告】 小笠原貴大

【ベンチ】 鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝

【副審】 外館篤(11:00~)

【評】

今年、東北地方の「梅雨入り宣言」は記憶がない。そして今日は先週の梅雨空から一転、真夏の猛暑となった。「梅雨に入りました。」とか「梅雨が明けました」というお上の宣言をしてもらいたい訳ではないが、宣言されるとなんとなく落ち着くのは不思議である。夕方のユースでは最高気温34℃だったようだ。

今日の相手は、AYASHI.FC(愛子FC)である。今年昇格選考試合で勝ち上がって来たチームである。これまで対戦はなく今日が初めての試合である。グラウンドはめぐみ野サッカーフィールドAグラウンド、全面天然芝の良好なグラウンドである。メンバーは14人、不慮の交代にも対応可能である。

13:00キックオフ。熱風と強烈な日差しにもかかわらず、最初からがっちり勝負の様相を呈した。相手チームは、これまでいい試合をしながらも勝ち星に恵まれていない。一方、我がチームも最下位争いをしている状況で、お互い負けられない、是非勝って勝ち点3を得たい、という想いがひしひしと伝わってくる。

開始早々1分、相手MFが中盤右サイドで前線FWからのパッカパスを受け、ボールを左に持ち替えて中央ヘボールを上げる。強いヘボールだった。ベンチの前で蹴ったのでボールの弾道は良く見えたのだが、ボールは無回転で左右にぶれながら飛んで行った。ボールはペナルティーエリア角辺りに到達した。DF上村は蹴られた瞬間、落下点を予想して待っていた。しかし、ボールは伸びて急に失速した。ボールは相手FWの目の前にポトリと落ちた。左斜め45度のシュートは、2、3度バウンドした。GKはタイミングを外され、ボールはゴール右ネットを揺らした。0-1。

開始早々の失点は、予定外だったがすぐに気持ちを切り替えた。その後はお互いの得意パターンで相手ゴールを脅かす。前半5分、山寄が右から相手DFを切り崩しゴール前の豊田に狙いましたセンタリングを上げたが、惜しくもゴールにはならず。山寄は19分にもチャンスを作りシュートする。22分には八重樫がペナルティーエリア外から強烈なシュートを放ったが、相手MFに当たりゴールには至らず。

27分、DF土肥が相手の攻撃を止め、左からドリブルで上がり、ボールを一度MF今野に戻す。今野はFW河村へパス。河村は左右を見て展開しようとドリブルで進む。相手DFに隙を見たか一気にトップスピードで突破を試みる。相手DF2人が左に移動して並んだ時、一瞬シュートコースが空いた。河村はこの瞬間を待っていたようだ。左足を振り抜く。ボールは超絶スピードではなかったが、GKは重心を戻すことができず、ゴールネット右に吸い込まれるボールを見送るしかなかった。1-1。待望の同点シュートにベンチもピッチも湧いた。

その後も攻撃は続くが、追加点には至らない。33分にはパルティーエリア付近の絶好の位置でFKを得た。キッカーは柴田。壁を越してのバナナ・シュートはゴールを少し上に逸れた。36分には河村が右から深く切れ込んでセンタリングするも得点にはならず。

40分を回り、後半アドバイスで前半終了かと思われた時、右でパスを受けた八重樫が俊足ドリブルで上がる。ゴールラインの手前で中へ低くスピードのあるアーリーカウ入のセンタリングを入れた。ボールは早く、ゴールラインを割るかと思われた。その時、後ろから凄いスピードで飛び込んできたプレイヤーがいた。ダビング・ヘッドされたボールはゴール左隅に突き刺さった。山崎だった。「ウー!」という観客とベンチの大歓声に包まれた。その後、前半終了のbellが鳴った。

後半に入る。1日でも最も暑い午後2時という時刻も重なり、暑さが両チームの選手達の体力を消耗させていく。早めに3点目を取って勝負を決めたい東北ケンブリッジに、後半5分絶好のチャンスが巡ってくる。CKからのボールが小笠原にピリと合った。小笠原のヘディングはGKのいないゴール左へ、誰もが「入った!」と思った。その時、疾風のように飛んできた相手DFの足先がボールに当たった。ゴールネットを揺らすはずだったボールはゴールの外へ入る変えて消えた。これは相手の超ファイン・アドバイスであった。そして、「チャンスの後にはピンチあり」のことわざ通り、カウンターから相手FWがドリブルでDFを突破してゴール右隅に決めた。これで2-2となる。

残りの時間は30分近くあり、勝敗はどちらに転ぶかわからない状況となり、厳しい試合となっていました。さらに、小笠原が相手GKと競った時に頭を打ち、落下した時に肩を強打して8分ほど試合が中断するというアクシデントがあった。

この厳しい局面に終止符を打ってくれたのは、八重樫だった。相手の攻撃のラストパスをカットしたDFは、センターサークル手前にいた柴田にパスする。柴田はドリブルで3,4人を引き付ける。左そばにいたフリーランの八重樫にパスした。相手DFは八重樫のスピードを警戒してか近寄ってこない。シュート・コースを消しているだけだった。八重樫は右半身に体(タイ)を変えてシュートする。GKはダヤンプしても届かないし、角度からいつてバーを越してくれればと思ったに違いない。しかし、ボールはGKの頭上を弧を描いて、しかしライクでゴール右サイドネットに突き刺さった。3-2。

これまで八重樫はシュートチャンスは何度かあったが、シュートが強すぎてか相手DFに当たりなかなか得点に結びつかなかった。今日の、力みの抜けた絶妙のシュートでこれまでのモヤモヤが吹っ切れたのではないかと思う。

残り5分と皆に告げた時「アディショナル・タイム8分です」と本部より伝えられたが、

最後まで集中の糸は切れずに3-2で勝ち切ることができた。この1勝は大きい。
この猛暑の中の試合、選手たちに拍手を送りたい。 【鈴木修平.記】

■ 2019年8月18日(日曜日) 県リーグ 2部第7節 対田尻FC戦



試合開始 15:00 (40分ハーフ) 場所:松島フットボールセンター・ピッチ2

【結果】 3-2で勝ち

【得点者】 柴田健太郎(1点目), 豊田雄一朗(2点目), 千葉一樹(3点目)

【アシスト】 黒田尚志(1点目), 柴田健太郎(2点目), 石川湧己(3点目)

【スタメン】 GK: 残間諒

DF: 小西賢、小笠原貴大、土肥功之介、上村隆道

MF: 石川湧己、今野琢人、黒田尚志、柴田健太郎

FW: 八重樫英一郎、豊田雄一朗、

【控え】 高橋佳亮、千葉一樹

【交代】 小西賢→高橋佳亮(40')、豊田雄一朗→千葉一樹(40')

【警告】 土肥功之介(遅延行為)

【ベンチ】 秋保盛樹、吉田和朝

【副審】 残間諒(11:20~)

【評】

集合時点でのピッキングテイションは、34°C・85%と、サッカーのゲームには不適な状況。

運営と審判の判断で飲水タイムが設定されることになった。
相手は今のところ「残留争いのライバル」田尻FC。お互い負けられない一戦である。
シア選手を除くと、13名で臨むことになり、控えに誰を置くかがポイントとなつた。

コンディション的に、全員がフルタイムを戦うことは難しいと思われ、ユーティリティーパーティーを温存しておくことにした。これが最後にはうまくはまるのだが、それはのちほど。

相手は攻撃力には定評があり、ロングパスでDFラインの裏を狙うパターンは、わかっていてはいても繰り返されるとほころびが出るもの。しかし前半はペースを握り、決定機が何度も続く。

開始2分、最初のCKを得て、右から柴田が速いボールを送るも、相手GKとの接触がファoulを取られて好機を生かせす。

逆に直後の3分にはDFのミスからゴール前で数的不利になるも、相手シュートは枠外へ。

続く4分、今度はこちらのミスが土肥から石川に渡る。石川の繰り出した

カムを黒田がワンタップで落とし、柴田がダイレクトで目の覚めるような一撃。【1点目】

めまぐるしく攻守が入れ替わる時間帯に先制点を取ることができた。
この後も攻勢が続き、12分には右サイドを突破した柴田が、利き足ではない右

で鋭いクロス。これをトントンシャのタイミングで豊田が頭で合わせ、2点目のゴールが突き

刺さる。【2点目】

18分には左からのクロスをまたも豊田がヘッドで叩くが、今回はポストを直撃。

ここから相手もペースを掴みだす。22分、相手のミドルがDFに当たってコスが変わり、ゴール右脇へ。これをGK残間がさすがのファインセーブ。

この後は、前試合で初ゴールを挙げた八重樫の時間になるかと思われたが…。

24分、石川の右クロスを八重樫が頭で叩くもGK正面。

37分には、中央を柴田が

ドリブルで突破し、黒田とのワンツーからラストパス。

八重樫絶好のチャンスだったが決め切れずバーの上へ。

ダメ押し点が取れないと、得てしてピントが訪れる。

39分、右サイドを崩され、クロスからワンタップで決められてしまい、1点差に。

さらに前半アディショナルタイム。あとワンプレーというところでカントーを食らってしまう。ゴール前1:2の状況からネットを揺らされたが、かろうじてオフサイドでノーゴールに。

これを決められていたら、後の展開はどうなっていたか。

ハーフタイム。帰ってくる選手達に余裕は感じられない。やはりコンディションとあわや同点かというピントがそうさせたか。

後半はどうしてももう1点欲しい。かといってカントー狙いの相手にDFの脚は残しておきたい。2人替えてしまって不慮の事態に備えなくていいのか?…

などなど考えたが、結局FWとDFを1枚づつ代えて、ポジションも少し入替をして

後半に臨むことに。

43分、中央の崩しから今野がループ気味にミドルを放つもGKにキャッチされる。

48分にはオサイドぎりぎりから抜け出した柴田がクロスを送るも八重樫に僅かに合わず。

逆に51分、DFがボールを奪われてフニッシュに持ち込まれるも残間がキャッチ。

56分、ファoulを取られた土肥が不用意に遅延行為を取られてイエローカードを受けてしまう。流れが少しずつ相手に。

63分、前線からの好守備でボールを奪い、石川がミドルを放つもバーの上。

残り10分強と思われる、ここからが勝負どころであった。

68分、相手のカウンターにDFの対応が遅れ、相手FWがエリア前でフリーになる。ベンチは失点を覚悟した。その瞬間、左SBに入っていた高橋が、相手の後方から見事な入アリントで追いつき、素晴らしいスライディングにより、ノーファoulでボールを蹴り出した。

そしてついに78分、相手のラインコントロールを見極めた柴田からのスルーパスが、右に位置を変えていた石川に通り、ドリブルからのクロス。これまた交代出場の千葉が逆サイドを全力で駆け上がってフニッシュ。ハンドした難しいボールを見事にミートして、のどから手が出る3点目をゲットした。【3点目】

アディショナルタイム、2点差で安心したのか、ゴール正面のFWをフリーにしてしまって2点目を失うも、からくも2-3で試合終了。

このゲーム、厳しいコンディションの中、残留を争う相手との直接対決で勝利できたことは大きい。今後につながる良い結果でした。ただし、反省点も。

DF陣は効果的なパスを狙うあまり、個人のスキルで相手をかわそうとしてひっかけられる場面や、逆に単純な前進から、読まれやすいパスを選択するなどの判断ミスが少々目立った。これはDFのミスからボールを失っているように見えるが、DFとMF間で、パス交換をしながら角度を変えて縦パスを狙うなどの工夫が必要と思われる。前の試合のリーグ1部のチームはそれができていた。次戦に期待。

【吉田】

■ 2019年9月1日(日曜日) 県リーグ2部第8節 対マリル松島SC戦

試合開始 13:00 (40分ハーフ) 場所:アディダススポーツパーク

【結果】1-0で勝ち

【得点者】今野琢人(1点目)

【アシスト】なし

【スタメン】GK:残間諒

DF:小笠原貴大、高橋佳亮、上村隆道、土肥功之介

MF:今野琢人、黒田尚志、河村一朗

FW:柴田健太郎、石川湧己、八重樫英一郎

【控え】千葉一樹



【交代】河村一朗→千葉一樹(50分)

【警告】なし

【ベンチ】鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝

【副審】残間諒(9:00~)

【評】

前節でリーグ戦1巡目7試合を終え、今日から2巡目に入る。今日の相手は「マリル松島SC」前回は0-4で負けている。今日の天候は灼熱の太陽の下30度を越している。場所は久々のアツイダス・スポーツパークだ。メンバーアーは12人。交代は1人、1人でもいるのといいのとでは心持が全く違う。

第3試合、13:00キックオフ。

真夏の暑さにもかかわらず相手はトップスピードで仕掛けてきた。当然こちらもそれに合わせて走ることになる。攻めて、攻められる攻防が続く。開始5分の門は無事通過した。

6分、FKを得る。9分、柴田が右サイドで相手DFをドリブルで翻弄しフィニッシュまでいった。しかし、右足でのシュートは強烈ではあったがゴール枠を少し越えた。左足だったら入っていたかも知れないというのがベンチでの声。11分、河村が左で相手DFともれながらもぶっちぎってセンタリング、詰めてきた柴田にぴたりと合い絶好のチャンスとなる。バウンドしたボールをハーフボレー気味にシュートした。決まつたら大歓声だったが、惜しくも外れる。

18分、相手にも絶好のチャンスが巡ってくる。得点となってもおかしくない場面

だったが、MF今野がそれを何事も無かったように消した。

29分、左からDF高橋(佳)がオーバーラップして上がる。DFをかわしほぼフリーでシュートした。GKはコナーに逃げるのが精一杯だった。このCK、キッカーは高橋(佳)、ボールは小笠原に合った。これまでCKをヘディングで何度か決めているだけに期待が高まつたが、惜しくもそれた。

流れを見れば、どちらかと言えばこちらが優勢だったよう見えた。しかし、得点できなかつた。これで体力を消耗すると、これまでのマリル松島との結末(同点・逆転)がまた…という想いが脳裏をよぎる。

第1試合、第2試合で少しはあった雲が、我々の第3試合では雲一つないカンカン照りになつた。ベンチにいても皮膚が痛いような暑さだった。プレーしている選手達の疲労度は推して知るべしかつた。相手はマリル松島、試合巧者でそのパワーウorkは短期間では身につかない一日の長がある。これにビードが加われば、ディフェンスラインは一瞬で破られ失点となる可能性大である。これまで何度も苦い思いをしてきたことが、選手達もそれを肌で知つてゐるので、決定的な場面を作らせないように全速力で相手に付き振り切られないようにしているのがよく分かつた。1点が勝負を決める厳しい試合となつてゐた。

後半に入つてもこの状況は続く。後半2分、FKで黒田の蹴つたボールは地を這うような40mくらいのショートだったが惜しくもゴールネットをかすめた。

後半10分、前半活躍の河村に代わり千葉が入る。暑さで皆消耗してゐる中、まだ元気な千葉の走りは東北クラバの攻勢に寄与してくれた。後半13分には、その千葉が快走してセンタリング、中央で待つてゐた柴田に合つたが、ショートは相手DFに阻まれる。

後半16分には、今度は柴田がサイドを突破してセンタリングした。ボールは上村に合つたがヘディングは少し逸れた。

相手DFも必死に守り、後半30分を過ぎても0-0の均衡は崩れず、これは良くて引き分け、下手するとまた終了前に煮え湯を飲まされるのでは…という想いがよぎる。

GK残間が相手FWと交錯した時にぶつかり、立ち上がり難くなり試合が中断する。その後、今度はMF黒田がクリアした時、相手FWが飛んできてぶつかり黒田は足を痛め動けず場外へ。緊迫した状況が続く。

後半34分、左の攻防で入口インを得る。これを千葉がDFがうようよい中、あれよあれよという間にゴール前まで到達する。狙い定めてゴール前に速いボールを入れる。八重樫がダイレクトで合わせるが相手DFにブロックされる。跳ね返つたボールはゴール前の柴田に、柴田は冷静に合わせた。誰もが「入つた!」と思った。しかしGKの捨て身のファイン・プレーにブロックされボールはペナルティ・エリアへ出していく。「あーっ!」と失望の声があがる。しかし、その時こぼれるボールのコースを予想していたかのように飛び込んできた選手がいた。右足で蹴つたボールは、クリアしてほつとした(?)相手DF・GKの間を抜けてゴールネットに突き刺さつた。背番号6の今野だった。

1-0。

今野はこの暑い中でも精力的に動き、中盤の制覇に腐心していた。競った後のボールのコースを読んで、何度も相手のパスを、ドリブルをかうし、攻撃の芽を未然に摘んでいた。相手チームに意外と決定的なチャンスが少なかったのはこれによるところが大きい。

この虎の子の1点を守りきり1-0で暑い試合は決着した。マリル松島に勝ったのは、自分が監督になってから初めてかも知れない。大きな、大きな1勝であった。

【鈴木修平.記】

■ 2019年9月15日(日曜日) 県リーグ 2部第9節 対塩釜FCウイセ戦

試合開始 13:10 (40分ハーフ) 場所:めぐみ野サッカー場C

【結果】 1-3で負け



【得
山 崎
点目)

2019年9月8日 藤崎の屋上ビアガーデンで懇親会

点者】
大河(1

【アシスト】なし

【スタメン】GK:残間諒

DF:小笠原貴大、高橋佳亮、土肥功之介、山崎大河

MF:今野琢人、黒田尚志、柴田健太郎、石川湧己

FW:八重樫英一郎、梅田芳樹

【控え】小西賢

【交代】梅田芳樹→小西賢(50分)

【警告】小笠原貴大

【ベンチ】鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝

【副審】残間諒(9:30~)

【評】

快晴、気温27度C。木陰は涼しいが、太陽の下は真夏の暑さだった。

今日の相手は、塩釜FCガイセイ。場所は、めぐみ野サッカーフィールド(旧:県C)グラウンドだ。前の試合が長引いたため、13:10のキックオフは13:20頃となった。その影響もあり選手達のアップは十分ではなかったようだが、暑いのでかえって良かったかも知れない。

立ち上がり、前節のマリル松島戦はいきなりトップ・スローで試合が展開したが、今日の相手塩釜FCガイセイは比較的スロー・スローで入ってきた。今日の天気と対戦相手を考えれば「さもありなん」という感じであった。パスを回しながらリズムを作り、強弱をつけて相手DFのほころびを誘う。時々、サイドに大きく振って外からえぐる。こちらは、今日ワン・トップ(?)の梅田が相手のDFからのパスの精度を精力的な動きで攪乱する。ボールの支配率は相手チームが勝っていたようだが、勝負は互角に見えた。

ただ、2度ほど決定的な場面が相手にあった。1度はサイドからえぐられ、ゴール前でのボールを強烈にボレでシュートされる。やがて、と皆思った。しかし、バーに当たつてゴールにはならなかった。バーが軋む凄い音がしたからその強烈さは想像に難くない。もう1本は、左ペナルティエリア外からのミドル・シュートだ。ボールはゴール右サイドネットへ一直線、これは「失点した」と覚悟した。しかし、ボールはセービングしたGK残間の手に阻まれ、ゴールを無にされた。このファインプレーにピッチからもベンチからも歓声が沸いた。

こちらも、柴田・石川・黒田が何度もチャンスを作るが相手のDFの好守にゴールは遠かった。石川のワンステップでのシュートは強烈で、相手GKは殆ど反応できなかったが、バーに当たり幻のゴールとなった。

前半は、0-0。勝負は後半に持ち越された。後半5分間は前半同様のほぼ互角の攻守であった。しかし、後半7分中央からドリブルで突破され失点した。相手のシュートを褒めるしかなかった。得点者は塩釜FCのペイント・ゲッターのようだった。0-1。

勢いづいた相手は、後半8分こちらの攻撃を止めるや否やパス1本でカウンターアクションで追加点を奪った。0-2。塩釜FCガイセイはどんな試合でも3点は入れられるようで、こういう所が試合巧者なのかも知れない。

2点を取り、更に引き離そうとする相手は中盤を細かいパスでつなぎ、中央に

空きスペースを作り勝負してくる。逆サイドが空いたと見るやすかさずサイド・チャンジして外から切り込んでくる。実に巧い試合運びであった。

0-2ではあったが、気力ではまだまだ負けていなかつた。何度もチャンスを作り攻めあがる。そんな中、後半18分CKを得る。ボールはGKの頭上を越えゴールの外へ、そこに来ることを予想してヘディングで中へ折り返す。それをヘディングでゴールへ…「入った!」ように見えた。しかしGKのファインプレーでボールはゴールの外へ…CKになった。

後半28分、今日初出場で左サイド・バックの山崎が、チャンスと見てオーバーラップして上がってきた。ゴールライン近くでボールをもらうと躊躇なくゴールへクロスボールを上げた。ボールは最初まっすぐだったが、ゴール前で急にカーブしてゴール右上隅に吸い込まれていった。初出場で初得点という、滅多にないデビュ-戦となつた。1-2。

これで流れは大きく東北クラブに傾いた。同点になれば、まだまだ勝負はわからないと都合のいいことを考えていたが、後半35分、相手の巧みなパスワークでゴール前を翻弄され失点。1-3となり勝負は決した。

暑い中、FWはよく動いて相手DFにプレッシャーをかけた。MFは攻守に精力的に動いた。DFは何度もピッチを消した。しかし、残念ながら相手が一枚上手だったと言わざるを得ない。朝夕、めっきり涼しくなつた。気候的にも、メンバ-的にも良い試合ができる素地は整つた。残り5試合、いい試合にしたい。

【鈴木修平.記】

■ 2019年9月22日(日曜日) 県リーグ2部第10節 対宮工クラブ戦

試合開始 12:00 (40分ハーフ) 場所:めぐみ野サッカー場C

【結果】 0-0で引き分け

【得点者】 なし

【アシスト】 なし

【スタメン】 GK:梅田芳樹

DF:今野琢人、上村隆道、土肥功之介、山崎大河

MF:外館篤、黒田尚志、石川湧己

FW:柴田健太郎、八重樫英一郎、豊田雄一朗

【控え】 なし

【交代】 なし

【警告】 なし

【ベンチ】 鈴木修平、秋保盛樹

【副審】 秋保盛樹(14:00~)

【評】

12:00キックオフ。相手は宮工クラブ、場所は先週と同じ「めぐみ野サッカー場Cグラウンド」だ。メンバ-は11人、交代はいない。

開始早々1分、DF上村がゴール前に上げた長いボールは、相手DFがヘディングでクリア

する。しかし、ボールはハーフライン内にいた石川の前に落ちた。石川は落ち着いてショットしたがGKの好守に阻まれる。

6分、DF山崎から石川、土肥とつながり中央に折り返す。ボールを受けたのは柴田。柴田はドリブルしながら相手DFを引き付けショット・チャンスを窺う。その時、柴田の後ろにできた空きスペースに走り込んできたのは黒田、柴田は足裏で後ろにパス、タイミングもぴったり、黒田は強烈なショットを放つもわずかにバーを越えた。

8分、中盤で相手のパスをカットした黒田のボールを柴田がつなぐ。柴田の長いボールはハーフライン右付近からゴール前に、そこに土肥が走り込んで来た。ワン・タップでショットしたボールはGKの正面だったが、強烈だったためこぼれた。豊田が詰めたがタイミングが合わなかった。

9分、左のハーフライン付近から早いダイレクト・パスが数回続き相手DFを翻弄、相手DFは殆ど動けなかったように見えた。最後に渡った石川は回りを見渡して中央へ早いゴールを流した。外館がショットしたがゴールの枠を捉えきれず。

4月に初めて宮工クラブと顔合わせをした時は、0-5で完敗だった。その時、中盤は圧倒的に相手に支配されていた。毎年4月にメンバーガガリと変わり、まったく新しいチームとして積み上げていくのが常なので、メンバー同士の意思疎通は当然少なく、流れるようなパスワークはほとんど期待できなかった。それが半年経って、流れるようなダイレクトでつなぐパスワークが、何回も見らるようになった。あの頃と比べたらチームとしての力は雲泥の差があり、面白いようにボールを回せていた。15分、17分、18分、19分、20分と前半30分までチャンスの連続であった。しかし得点には至らず、徒(イタズラ)に体力を消耗していくことを心配した。

後半に入っても、この流れは大きくは変わらず1分豊田、2分外館、4分豊田、6分八重樫、10分、16分柴田、20分八重樫、21分石川とチャンスはたくさんあったが相手のGKの壁は厚く、ゴールをこじ開けることはできなかった。

逆に、相手のパスードあるカウンタ攻撃に何度も危ない場面があったが、今日はお休みの小笠原に代わりCBとキャプテンを務めてくれた今野が完璧に近いディフェンスをコントロールしてくれた。おかげで失点することなく0-0で引き分けることができた。

攻めても攻めても点が入らず、徒労で体力がもつか心配だったが、天気予報通り途中で霧雨になり、寒いくらいで丁度良かった。【鈴木修平.記】

■ 2019年9月29日(日曜日) 県リーグ 2部第11節 対 KEMONO in 槇木戦

試合開始 14:00 (40分ハーフ) 場所:松島フットボールセンター2

【結果】4-3で勝ち

【得点者】八重樫英一郎(1点目)、今野琢人(2点目)、土肥功之介(3点目)、土肥功之介(4点目)

【アシスト】石川湧己(1点目)、なし(2点目)、千葉一樹(3点目)、柴田健太郎(4点目)

【スタメン】GK:豊田雄一朗

DF:小笠原貴大、土肥功之介、山崎大河

MF:今野琢人、黒田尚志、石川湧己、小山海斗

FW:柴田健太郎、八重樫英一郎、千葉一樹

【控え】なし

【交代】なし

【警告】なし

【ベンチ】鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝、長谷川昂輝

【副審】吉田和朝(9:00~)

【運営当番】鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝、佐々木元樹、今野琢人、小笠原貴大、黒田尚志、柴田健太郎

【評】

最近の天気予報はよく当たる。それによれば今日は「曇り時々小雨、夕方に雨」だった。運営当番の時は雨が一番困る。書いたものが濡れて見えなくなるからであるが、午前中は曇り時々小雨、時々太陽も顔を見せほぼ天気予報通りだった。心配された運営も、今野君、小笠原君、黒田君、柴田君の若手4人と佐々木元樹さんの協力と第1試合の副審を吉田和朝さんが務めてくれたおかげで滞りなく終了できました。御礼申し上げます。

運営当番の時の試合は何となく慌ただしい。運営を気にしながら自分達の試合のマッチ・ミーティングをしたり、メンバー表を書いたり、ユニフォームをチェックしたりしなければならないからだ。今日のメンバーは12人、その中に1人、4月以降仕事の関係で休んでいた懐かしい顔があった。声をかけて近況を聞いたりしていたが、名前が出てこない。話を終えて運営当番に歩いて戻る途中で思い出した。長谷川昂輝君だった。話を聞けば、一段落したので来てくれたとの事だったが、まだ試合ができるまでには(体が)至っていないので今日はベンチとした。また、本職のゴールキーパーもいなかつた。話し合い(?)で豊田君となつた。

14:00キックオフ、相手はKEMONO in 楓木。今年の県リーグ2部は3~7位のチームが混戦模様と言って良い状況である。例年ならこの時期はあらかた大勢が見えており「この試合は落とせない!」という厳しい試合はそんなに無かったようと思うが、今年は違う。自分達もそうだが、相手チームもこの試合の勝ち負けが大きく影響する大事な試合になった。そういう背景があって、最初から最後まで激しい当たりの攻防が展開し、選手が倒れて動けなくなり、試合が中断することもしばしばだった。荒れなかつたのは両チームの品性かも知れない。

試合の方は、前半7分、八重樫の目の覚めるようなショットで先制する。石川がゴールティーエリアを横断するラストパスを出す。後ろから走り込んで来た八重樫が間髪を入れず右足で強蹴した。ボールの軌道は見えず「かん!」という乾いた音がしただけだった。見ればボールはゴールネットを揺らしていた。見ていた観客からも「オーッ」という歓声が聞こえたほど強烈なショットだった。前節、何度もチャンスの場面がありながらも得点にならなかつた皆のうつ憤を晴らしてくれたようだった。1-0。

10分、相手もロングパスとサイドチェンジを織り交ぜて揺さぶってくる。細かいパスも上手い。リズムよくボールをつなぎ、最後は右サイドからダイレクトで中へ速いボールが入ってきた。相手選手とDFが競った、ヘディングされたボールは見事にGKの逆を突き、ゴール右サイドネットに突き刺さった。「流石!」と相手のアベーを感じていたが、後でわんわんと知る。1-1。

追加点を取った方が有利になることは皆、体で知っている。必然的にボールへの寄せも厳しくなる。前の第2試合までは曇天で小雨もぱらつき、まあまあの天気だったのが、我々の第3試合は青空のかんか照りとなった。両チームとも体力が消耗していくのが目に見えて分かった。そんな中13分、ゴール前の混戦からボールがルーライン左へ流れる。下がっていた今野が素早く詰める。斜めから詰めてきたので、一度止めるかと思いつかれて利き足ではない左足で、しかもサイドで強蹴した。ボールはゴールへ一直線、「がん!」とバーを叩く音がした。GKはボールを掻き出した‥。入ったようにも見えたが、前節と同じように幻になるのか!? 皆が固唾をのんで見守る中、判定は「ゴール」となった。2-1。

26分、中盤からドリブルで相手を翻弄した千葉から土肥にパス。左を駆け上がりってきた土肥はちょっとトラップにもたついた感があったがそれを物ともせずに左足を振り抜いた。ボールはGKの右脇を抜いてゴール右隅に突き刺さった。3-1。

しかし、32分に3-2とされ前半を終える。

後半、お互い体力を消耗しながらの気力の勝負となった。フィジカルには定評のある相手チームだが、年齢的にはこちらが少し若い。この「少し」は相手とのボールのせめぎあいの時、最後のひと踏ん張りで効いたような気がする。後半は東北クラブが体力的に優勢だったよう見えた。何度かのチャンスの中、後半25分、中盤右で柴田がボールをコントロールする。DFの位置にいた小山へ回す。小山は中へ切れ込む。柴田は外から大きく回って小山へ合図した。小山は柴田の動きに合わせて絶妙の縦パス。意図通りのパスを受けた柴田はゴールライン少し手前でゴール前に折り返す。低く早いボールは相手GKを摺り抜けてゴール前に、そこには土肥が待っていた。体ごとゴールへ突っ込んだ。4-2。大きな追加点にピッカからもバッカからも大歓声が上がった。

相手も気力で追加点をもぎとりに来たが、1点にとどまった。4-3で終了のホーリーがなった時、選手たちは疲れきっていたようだ。豊田のGKも良かった。

見応えのあるいい試合が続いている。残り3試合もこのようでありたい。

【鈴木修平.記】

■ 2019年10月6日(日曜日) 県リーグ2部第12節 対六郷クラブ戦

試合開始 11:40 (40分ハーフ) 場所:めぐみ野サッカー場C

【結果】 1-4で負け

【得点者】 八重樫英一郎(1点目)

【アシスト】石川湧己(1点目)

【スタメン】GK:残間諒

DF:小笠原貴大、高橋佳亮、上村隆道、千葉一樹

MF:今野琢人、黒田尚志、小山海斗、河村一朗

FW:石川湧己、柴田健太郎

【控え】梅田芳樹、八重樫英一郎

【交代】河村一朗→八重樫英一郎、今野琢人→梅田芳樹

【警告】柴田健太郎

【ベンチ】鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝

【副審】残間諒(13:30~)

【運営当番】鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝

【評】

11:40分キックオフ。場所は利府めぐみ野サッカーフィールドCグラウンド。我々の試合の前に女子の社会人サッカーがあったので変則的な開始時間となったようである。天候は、予報に反し青空に太陽がのぞく晴れだった。

相手チームは昔から当たりの強いパワーサッカーを信条としているように思っていた。年々メンバーや歳を重ね少しずつパワーが弱くなってきていると勝手に思い込んでいた。それが誤りだったということを開始早々思い知らされる。メンバーも若返ったか最初から激しい当たりの攻防となった。

前半開始早々1分、3分、6分と立て続けにシュートまで持ち込まれピッチとなつたが、こと無きを得る。

前半10分、こちらも反撃に転じゴール前でチャンスが訪れる。小山がヘディングで押し込みゴールするもオフサイド。

最初から激しいプレーの応酬で、倒れてピールされるとすぐに笛が鳴った。その流れに乗ってか12分、PKを取られてしまう。0-1。

17分、惜しい場面があったが得点ならず。逆に20分、サイドラインの横パスをカットされ0-2。

その後25分、27分、29分、34分、39分と惜しい場面が続くも得点にはならず前半終了。

後半に入って、最初は相手の押せ押せムードにこちらは守勢一方。9分には「あわや失点!」という場面をGK残間のファインプレーで食い止める。

18分、19分、20分、21分と立て続けにチャンスはあったがゴールをこじ開けることができなかった。

逆に25分、相手がチャンスをモノにして0-3とされる。これは痛かった。

その直後の26分に後半から満を持して登場した八重樫がゴール前でGKと交錯しながらも一瞬早くタッチしてゴールを奪った。1-3。3点目を失う前にこの1点が決まっていれば流れはもっと変わっていたのではないかと思うと返す返すも残念であった。

32分にはFKをアディングで決められ1-4。勝負あったという感じであった。

今日勝てば最終戦を待たずして気持ちが楽になる、という思いは皆同じだったが、そううまくはいかないのが常である。残り2試合、試合の中でチャンスはある、それをなんとか決められる「いい試合」を期待したい。また試合の勝敗は相手チームだけでなく審判も大きな要素になる。審判の傾向を早く見極め、いい結果になるようにしたいものである。

【鈴木修平.記】

■ 2019年10月20日(日曜日) 県リーグ2部第13節 対AYASHI.FC戦

試合開始 14:00 (40分ハーフ) 場所:アディダススポーツパーク

【結果】 5-3で勝ち

【得点者】 河村一朗(1点目)、千葉一樹(2点目)、黒田尚志(3点目)、千葉一樹(4点目)、山崎大河(5点目)

【アシスト】 土肥功之介(1点目)、なし(2点目)、柴田健太郎(3点目)、なし(4点目)、なし(5点目)

【スタメン】 GK:小西賢

DF:小笠原貴大、高橋佳亮、上村隆道、土肥功之介

MF:今野琢人、黒田尚志、河村一朗

FW:千葉一樹、豊田雄一朗、柴田健太郎

【控え】 外館篤、山崎大河

【交代】 千葉一樹→山崎大河、豊田雄一朗→外館篤

【警告】 なし

【ベンチ】 鈴木修平、秋保盛樹、吉田和朝

【副審】 吉田和朝(10:00~)

【評】

前日の雨も、今日は晴れるとわかっていたので安心だった。天気予報の確度に感謝である。

残り試合は2つ、今日負けると最終戦で決着を付けなければならなくなる。是非ともそれは避けたい、みなの本音であった。相手はAYASHI.FC(愛子FC)、前回は3-2で辛勝している。場所は、相性の良いアディダススポーツパークだ。

開始早々1分、東北クラブはキックオフのボールを回しながら攻撃のチャンスを窺う。と、土肥が前が空いたと見るやドリブルで上がる。左の千葉が外へ開き、真ん中が空いた。トップにいた河村が動く。相手DFは当然付いてくる。土肥は縦に速いパスを出した。河村のスピードに、相手DFは河村を離してしまった。河村がワントップでターンした時、相手DFは河村の背後に置き去りにされていた。河村はまだ距離があったがペナルティエリア付近から迷わずシュートした。ボールは芝生を滑るようにゴール右サイドネットにおさまった。あまりに自然に入ってしまったので、大歓声とはならなかつたが、最初のチャンスをモノにした河村に、大きな拍手が贈られた。もともとボールコントロールには定評があり、スピードもあるがなかなか自分の思うようなプレー

にはならなかつた試合が続いていたが、これで入ッタル全開という感じを受けた。河村のシュートも素晴らしかつたが、河村へのパスコースを開けた千葉の動きも見逃せない。1-0。

勢いに乗つたチームは、中盤を制し追加点を狙う。12分、右から柴田が突破口を作る。ボールは河村に、ペナルティーエリア外で横にドリブルしシュート・チャンスを窺う。1点目を入れてゐるし、得意の左足の体勢なのでシュートするかと思ったら、後ろから来た千葉にパス(?) 千葉はDFを翻弄してシュートしたが、ゴール・バーを高く越すようなボールとなつた。「あーっ!」という溜め息がベンチから漏れた。ところが、ボールは山なりの弧を描いて、キーパーの手をかすめてゴールイン。遠くから見ていたから分からなかつたのか、びっくりのゴールだつた。2-0。

前半は、23分に相手のカウンター攻撃に危ないと思われる場面があつたが、事なきを得て終わる。

後半に入つても、攻勢は続く。後半開始早々、上村は相手FWへのパスを好ダッシュでインターセプト、そのままシュートまで持ち込み勢いに拍車をかけた。後半2分、中盤で何度かパスを細くなぎ、最後は柴田が抜け、横を抜けて行った黒田へ絶妙のキーパス。右斜め45度、ペナルティーエリア角から低弾道のシュート、GKの腕を振り抜けゴールイン。貴重な3点目だつた。3-0。

相手も黙つてはいられない。見事なパスワークでカウンターを狙う。これが功を奏し後半7分に1点を許す。3-1。

しかし後半10分、千葉が目の覚めるようなシュートを決め再び突き放す。千葉は何度かボールにタッチした後、上がってきつた土肥にパス、絵に描いたような「壁パス」でボールをもらい、一人置き去りに。次のDFが目の前に迫る。右にドリブルし、相手の重心が右に移つたところをすかさず左に切り返す。相手DFは逆を取りながら必死で喰い下がる。千葉はトップスピードのまま、体(タイ)を変え、右足先でシュートした。DFのスライディングが千葉と交錯し、千葉は転倒した。しかし、ボールはゴール右サイドネット上隅にもう突き刺さつてゐた。壁パスから、あれよあれよという間の一瞬だつた。千葉は転倒しながらボールの行方を見ていたであろうか。4-1。

これで「勝負あつた」と思った。しかし、相手はこちらの疲れを待つてゐるように35分、38分と立て続けに得点し、4-3まで迫つて來た。30秒あれば1点入る世界である。アディショナル・タイムは1分以上あるようで、ピッチにもベンチにも暗雲がたち込めた。

後半40分、味方のフリー・キックをゴール前で競る。相手ゴールから逃げて行くこぼれ球を山崎が追いかける。1回転してシュートした。ボールはゴール左へ飛んだ。GKは見送るしかなかつた。ボールはゴール左下隅に決まつた。ピッチもベンチも歓声に沸いた。5-3。終了のホイッスルが鳴つたのはその後すぐであつた。

今日は、最初から気合十分でプレーにそれが現れていたようだ。相手のパスワークも悪くなかった。ただ、こちらのMF・DFがパスコースを読み、1人だけでなく、2人、

3人と詰めることで、未然に攻撃の芽を摘みとり、攻撃への起点にできたようである。また、シュートもGKが届かないところに、しかもゴールで飛んでいた。皆、意識してそうしていたようで、得点に結びついた大きな要因の一つであろう。力任せに蹴ってはこうはならない。決められるところで決めたことが一番の勝因ではなかったか。

残り1試合。余程の事(人数不足で試合棄権とか)がなければ来年も芝生でプレーできると思われるが、毎年大事な試合となる「田尻戦」である。いい試合で来年につなげたい。

【鈴木修平.記】

■ 2019年11月10日(日曜日) 県リーグ2部第14節 対田尻FC戦

試合開始 11:30 (40分ハーフ) 場所:色麻町愛宕山サッカーフィールド

【結果】 2-2で引き分け



【得点者】 石川湧己(1点目)、柴田健太郎(2点目)

【アシスト】 なし(1点目)、石川湧己(2点目)

【スタメン】 GK: 残間諒

DF: 高橋佳亮、上村隆道、小山海斗、千葉一樹

MF: 今野琢人、黒田尚志、河村一朗、

FW: 梅田芳樹、石川湧己、柴田健太郎

【控え】外館篤、小西賢、八重樫英一郎

【交代】梅田芳樹→八重樫英一郎、河村一朗→小西賢、千葉一樹→外館篤

【警告】なし

【ベンチ】鈴木修平、秋保盛樹

【副審】外館篤(9:30~)

【評】

2019年(令和元年)リーグ最終戦は、色麻町の愛宕山運動公園だった。この2年間位、ここで試合をすることが無かったので現メンバーのほとんどが初めてのグランドだったようだ。相手は「田尻FC」、今日勝てば入替戦を免れる可能性があるので、当然厳しい試合になるだろうと予想された。

天候は快晴だったが、時折強風が吹いたり、曇るともう一枚着込まないと寒くてたまらないという、この土地特有の気候は健在であった。

予定より10分遅れて11:30、東北ケーブルのキックオフで始まった。ファースト・タッチで下げるボールをMF黒田がワン・タップして前線にロング・パスを蹴った。何でもない普通のプレーだったが、相手FWが気迫鋭く詰めてきて、蹴られたボールは相手FWの顔面に炸裂した。「バーン!」と大きな音がして相手FWは崩れた。よほど強烈だったと見え、開始早々10秒でプレーは中断となった。幸い、その後相手FWの選手はプレーはできたようだが、出鼻をくじかれたようで氣の毒ではあった。

相手チームは、予想通り中盤から厳しいボディ・チェックで当たってきた。最初からこんなに飛ばして大丈夫か?と思うほどだった。しかし、こちらも負けてはいない。中盤を制し主導権を握ろうと互いに激しくぶつかった。そのため、お互いゴール前までなかなか到達できなかった。

相手は、カントー攻撃が得意である。スピードがあり、一気にゴール前まで突破してゴール、というパターンで何点も得点している。これは何度も対戦して、みな体で知っているのでそのような決定的なチャンスは作らせなかつた。

膠着状態に見えた前半20分、中盤右でボールを受けた千葉は、相手MF、DFを誘いこんで引き付け突破、あれよあれよという間にゴールラインまで到達。ゴールライン上をドリブルしてセンタリングするも詰める人なく、ボールはゴール前を素通りしていく。

23分中盤左にいたDF千葉が相手MFのボールを奪い、中へ切り込む。左タッチラインを走る柴田にパスを出す。相手DFは逆をとられ、柴田はフリーでボールをもらう。そのままゴールへ一直線。ショートまでいったがわずかに外れる。

26分、相手の危ない横パスをカットし、すかさず攻撃に転じた小山は、柴田へつなぐ。柴田は左サイドを走っていた*ヘロング・パス。ピタリと合ったがゴールライン付近で切り替えした時CKへ逃げられる。

27分、FW柴田が相手DF2枚を翻弄してショートまでいくもゴールにはならず。

29分、石川がゴール前に迫りショートまで行ったがこれもCKに逃げられる。

31分、柴田がナイスセンタリングを上げるも得点には至らず。

逆に、38分一瞬連携が乱れたか、カウンターから相手FWに決定的なチャンスを与えてしまい0-1。相手の気迫が実った瞬間であった。前半を0-1で折り返す。

後半開始早々、1分、2分、5分とチャンスが続く。しかし得点にならず。

相手(は)追加点が欲しい。こちらは早く同点にしたい。お互いゴール前まで肉迫しながらゴールネットを揺らすことができなかった。

後半28分、ベンチ内を一陣の突風が駆け抜けた。ユニフォームを入れてあるプラスチックのケースの蓋が空中高く舞い上がり吹っ飛んだ。慌ててベンチを出た時、「ウー!」という歓声を背中で聴いた。振り返ると、石川がチームメイトの祝福を受けていた。後でビデオを見ると、今野から黒田とボールが渡り、最後は石川がDF3人に囲まる中、ペナルティーエリア内でドリブルし左隅に決めていた。

これに勢いづいた東北クラブは、さらに攻勢を強め何度もチャンスを作る。

後半35分、右から石川がカウンター攻撃で相手陣内深く切り込む。上がってきた柴田へパス、柴田はペナルティーエリア線上で、強蹴。目にも止まらぬスピード・ボールはゴール左隅に突き刺さった。これが柴田の真骨頂!というショットだった。2-1。

終了間際、1点を返され2-2で引き分けに終わったが、1年を締めくくるにふさわしい試合だったと思う。振り返れば、毎年のことではあるが全く新しいメンバーで始まり、最初は体も思うように動かず、チーム・プレーもゼロから築いてきた。最初は連敗が続いたが、夏の猛暑の試合を4連勝の勝ち星で飾った辺りから見違えるようなプレーが随所に見られるようになった。後半戦は全く別のチームと見間違うほどだったことだろう。戦績も6勝5敗3引き分けで5位(多分)という立派な結果だった。どの試合も、この結果につながっている。出場してくれたすべての選手とスタッフの方々に感謝したい。【鈴木修平.記】

【追記】最終戦で六郷クラブが塩釜FCヴィーゼに勝ったため、得失点で六郷クラブが5位、東北クラブは6位となりました。

第41回 宮城県サッカーリーグ2部個人成績表 得点ランキング アシストランク

順位	氏名(チーム名)	ポイント
1	大隅弦(楓木)	12
2	菅原義豪(六郷)	8
2	石渡聖也(塙釜)	8
2	高橋裕司(塙釜)	8
5	村上和也(田尻)	7
5	伊藤拓未(松島)	7
7	平良木元(楓木)	6
8	渡会晃汰(宮工)	5
8	長南拓海(塙釜)	5
10	石川純(塙釜)	4
10	三橋雄介(塙釜)	4
10	柴田健太郎(東北)	4
10	熊坂直人(愛子)	4
10	大沼飛翔(松島)	4
10	佐藤海人(宮工)	4
10	山下裕人(宮工)	4
17	丹野海人(松島)	3
17	河村一朗(東北)	3
17	菅野紘太朗(楓木)	3
17	中野友和(田尻)	3
17	真館裕也(六郷)	3
17	本郷裕人(松島)	3
17	大友卓哉(六郷)	3
17	村岡洸(塙釜)	3
17	由利珠莉也(塙釜)	3
17	後藤良太(松島)	3
17	横山郁哉(宮工)	3
17	本間玄(愛子)	3
17	八重櫻英一郎(東北)	3
17	鎌田洋(宮工)	3
17	千葉一樹(東北)	3
17	鈴木久生(宮工)	3
17	豊田雄一朗(東北)	3
34	佐々木大輝(田尻)	2
34	若杉龍太(愛子)	2
34	山崎大河(東北)	2
34	加藤健治(六郷)	2
34	日下裕太(楓木)	2
34	佐藤文弥(愛子)	2
34	庄子悠一(六郷)	2
34	石川湧己(東北)	2
34	佐々木誠也(六郷)	2
34	佐々木優(宮工)	2
34	青沼正敏(田尻)	2
34	中俣徹(楓木)	2
34	黒田尚志(東北)	2
34	江口翔馬(宮工)	2
34	太田善貴(楓木)	2
34	白鳥拓也(田尻)	2
34	今野琢人(東北)	2
34	富田壯史(田尻)	2
34	土肥功之介(東北)	2
34	荒木竜也(松島)	2
34	荒木隼也(宮工)	2
34	高泉拓也(田尻)	2
56	佐々木雄太(塙釜)	1
56	庄子直哉(愛子)	1
56	菊池篤(楓木)	1
56	小笠原貴大(東北)	1
56	庄子渉(塙釜)	1
56	中島涼(塙釜)	1
56	山寄晶平(東北)	1
56	大友健(宮工)	1
56	阿部瞬(宮工)	1
56	高橋武巳(松島)	1

順位	氏名(チーム名)	ポイント
1	石川湧己(東北)	6
1	菅野紘太朗(楓木)	6
3	柴田健太郎(東北)	4
3	石崎正樹(田尻)	4
3	中俣徹(楓木)	4
3	渡会晃汰(宮工)	4
3	高橋裕司(塙釜)	4
3	村岡洸(塙釜)	4
3	太田善貴(楓木)	4
3	大知里康(塙釜)	4
11	佐々木優(宮工)	3
11	丹野海人(松島)	3
11	佐藤恭哉(六郷)	3
11	中嶋広夢(宮工)	3
11	関根響(松島)	3
16	太田隼輔(宮工)	2
16	高橋武巳(松島)	2
16	林文亜希(松島)	2
16	三橋雄介(塙釜)	2
16	鹿野裕樹(六郷)	2
16	浜口尚樹(愛子)	2
16	加藤健治(六郷)	2
16	石渡聖也(塙釜)	2
16	中野友和(田尻)	2
16	長南拓海(塙釜)	2
16	本郷裕人(松島)	2
16	若杉龍太(愛子)	2
16	八重櫻英一郎(東北)	2
16	村山良太(楓木)	2
30	後藤良太(松島)	1
30	曳地史宏(楓木)	1
30	針生大作(六郷)	1
30	太田良貴(楓木)	1
30	土肥功之介(東北)	1
30	小島将和(塙釜)	1
30	黒田尚志(東北)	1
30	佐々木啓祐(楓木)	1
30	荒木隼也(宮工)	1
30	内海松二(松島)	1
30	西山剛人(六郷)	1
30	青沼正敏(田尻)	1
30	村上和也(田尻)	1
30	斎藤義行(六郷)	1
30	大隅弦(楓木)	1
30	大友卓哉(六郷)	1
30	富田壯史(田尻)	1
30	佐藤勝太(愛子)	1
30	山下裕人(宮工)	1
30	古田翔哉(松島)	1
30	小野寺優太(塙釜)	1
30	佐々木雄太(塙釜)	1
30	千葉一樹(東北)	1
30	佐藤圭(松島)	1
30	由利珠莉也(塙釜)	1
30	瀬ノ上益己(田尻)	1
30	平良木元(楓木)	1
30	河村一朗(東北)	1
30	今出川歩夢(塙釜)	1

2019年メンバー





2020年3月9日 初版発行

製作者 鈴木修平

発行所 東北(トンペイ)クラブ

〒981-0944

仙台市青葉区子平町11-12

電話 022-273-5114